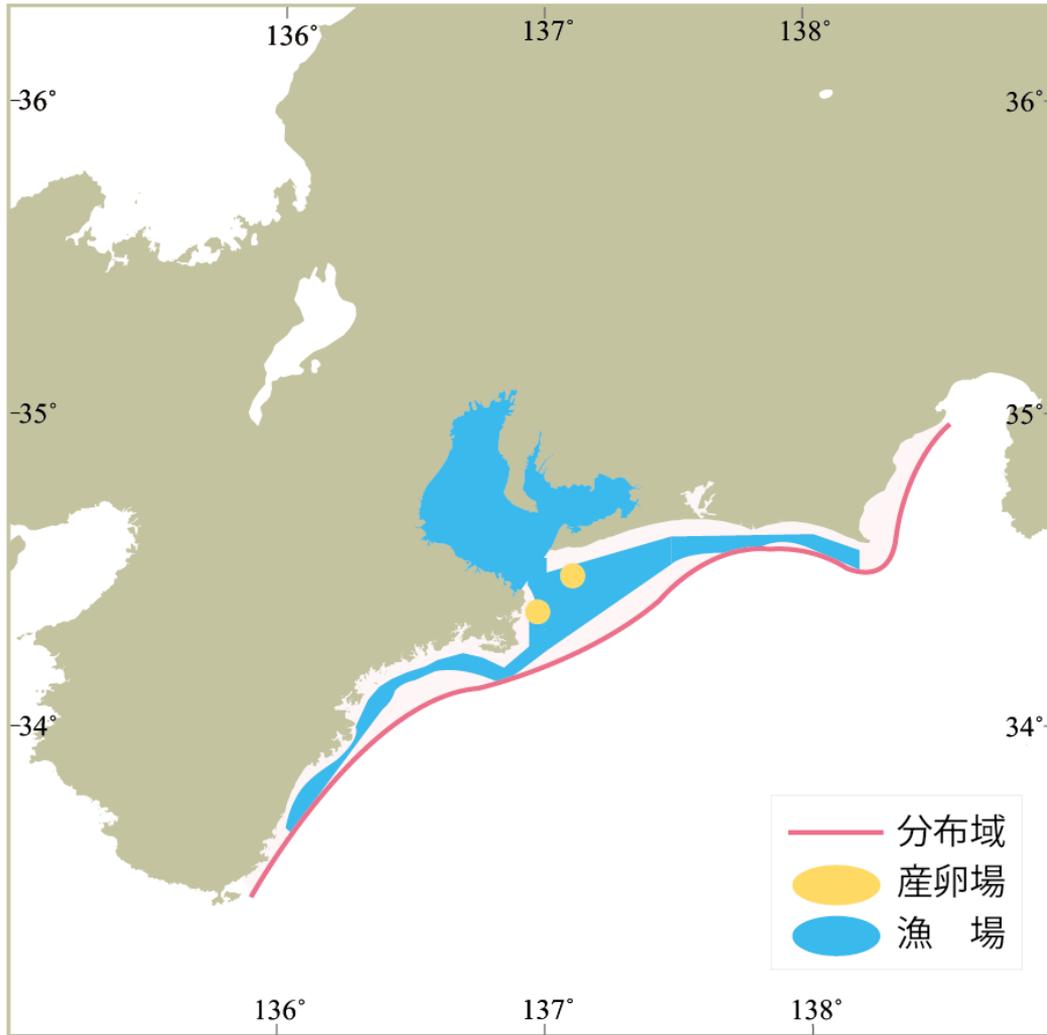




トラフグ伊勢・三河湾系群 令和3年度資源評価結果

生物学的特性

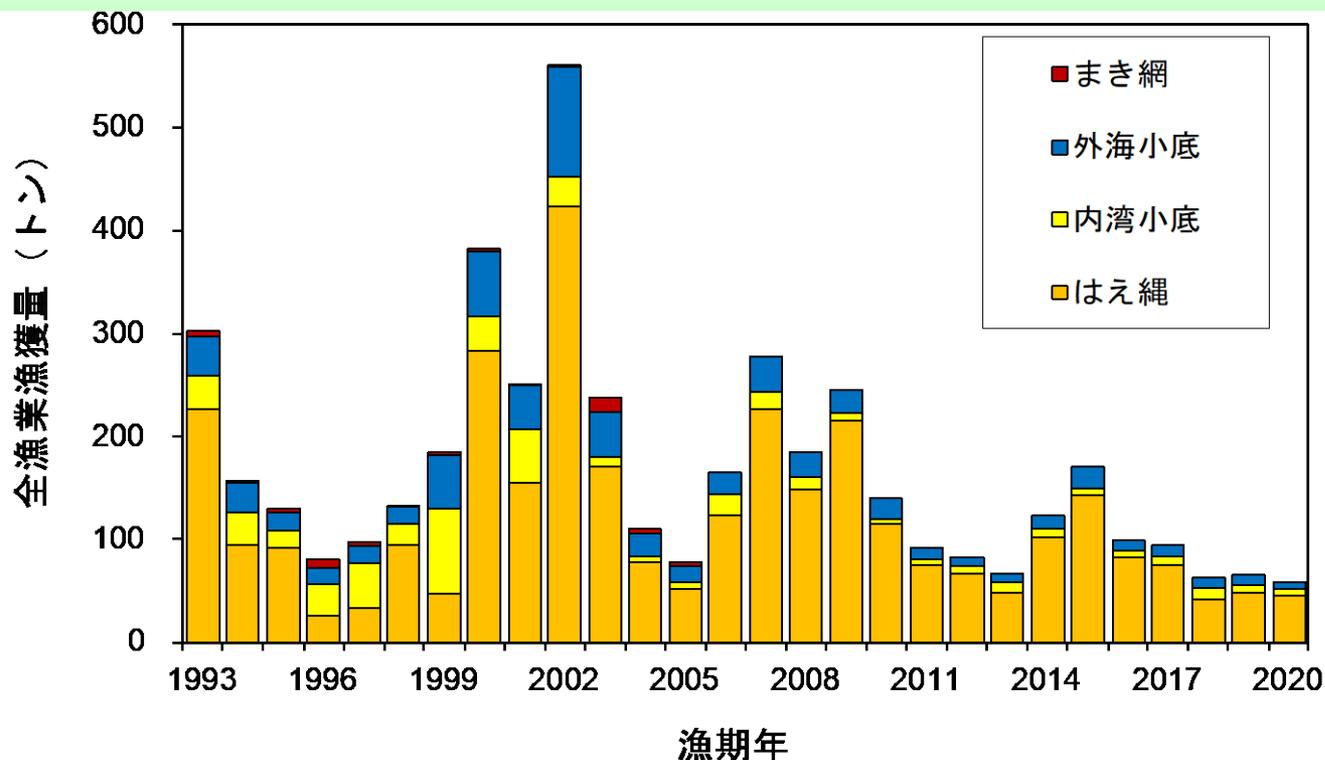


生物学的特性

- 寿命：10年以上
- 成熟開始年齢：雄2歳、雌3歳
- 産卵期・産卵場：4～5月、伊勢湾口
- 食性：仔魚後期までは動物プランクトン、稚魚期は端脚類、十脚類、多毛類、昆虫類。未成魚期はイワシ類、その他の幼魚や甲殻類、成魚期は甲殻類や魚類
- 捕食者：不明

- ・ 紀伊半島東岸から駿河湾沿岸域が主な生息海域

漁獲の動向



- 2020年漁期（4月～翌年3月）の漁獲量：58トン
（2019年漁期：66トン）
- 2020年漁期漁業種内訳：外海小底が10%、内湾小底が10%、はえ縄が80%、まき網による漁獲は2006年漁期以降は自主規制されている
- 2020年漁期の種苗放流尾数48万尾、混入率58%、添加効率0.048

資源評価の流れ

2020年漁期までの年齢別・年別漁獲尾数、資源量指標値



2020年漁期までの年齢別・年別資源尾数、年齢別・年別漁獲係数



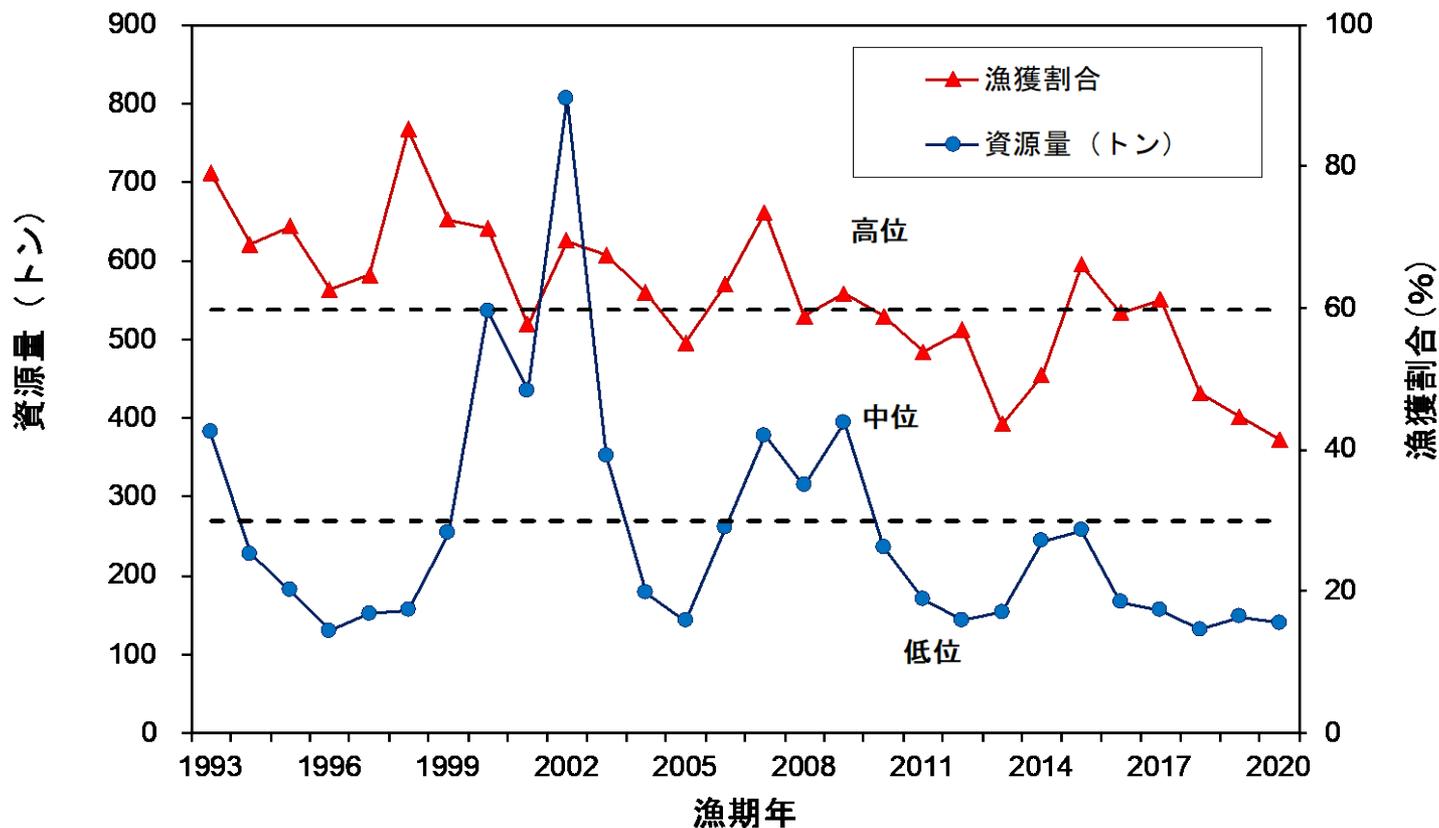
2021年漁期以降の年齢別・年別資源尾数、親魚量



2022年漁期のABC

- コホート解析
- 自然死亡係数は0.25を仮定
- 0歳天然魚資源量指標値および1歳魚資源量指標値を用いたチューニング
- 2021年漁期へ前進計算
- 2021年漁期の加入量は0歳天然魚資源量指標値から推定した天然魚加入尾数と2016～2020年漁期の5年間の放流魚加入尾数平均値の合計を仮定
- 2021年漁期の漁獲係数は2018～2020年漁期の3年間の単純平均値を仮定
- 2022年漁期以降へ前進計算
- 2022年漁期以降の加入量は一定とし、2017～2021年漁期（天然＋放流）の5年間の単純平均値を仮定
- 2022年漁期以降の漁獲係数は2018～2020年漁期の単純平均値の選択率におけるF20%SPRを仮定

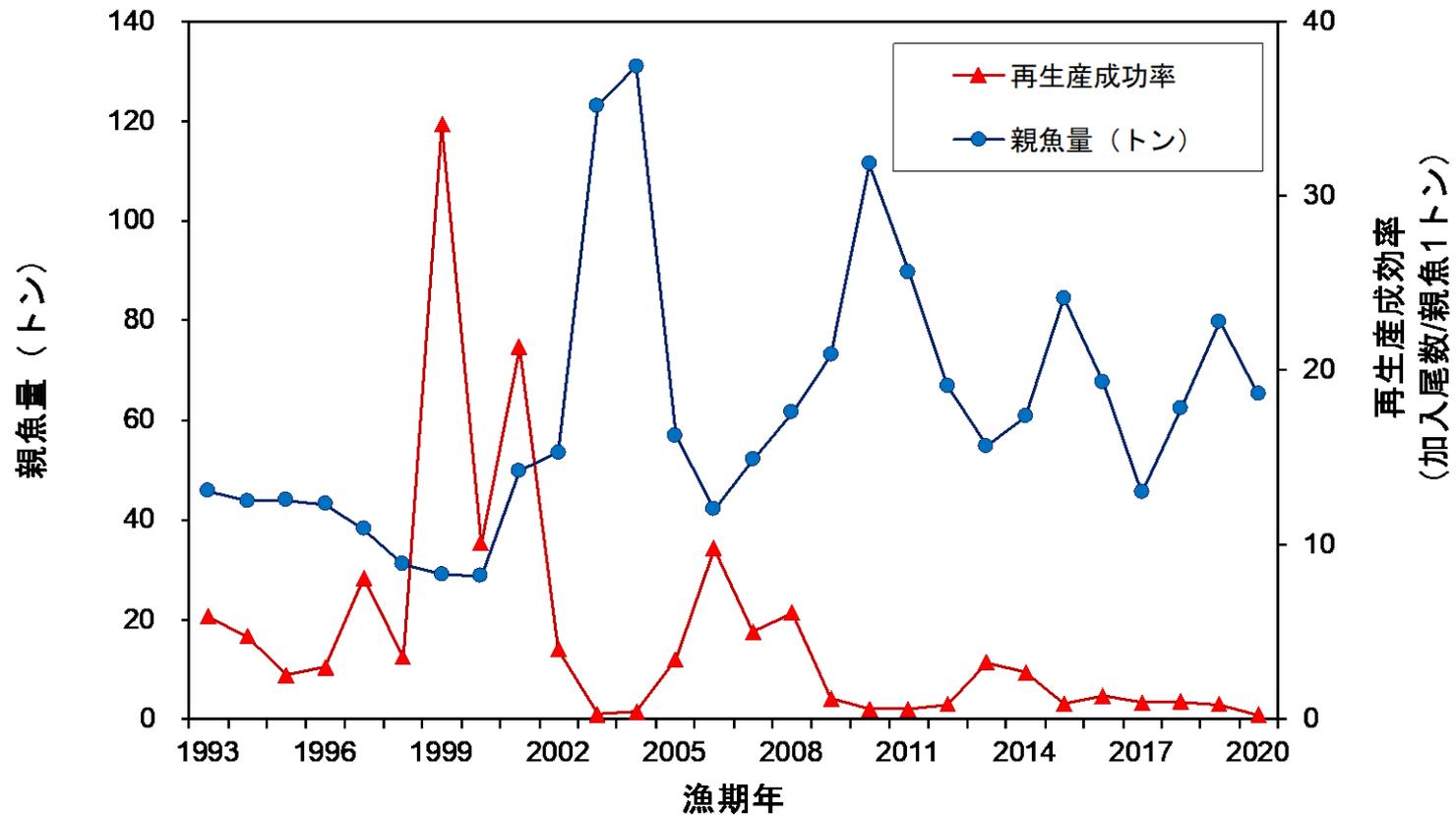
資源の動向①



※水準区分 低位／中位：269トン、中位／高位：537トン
(過去最大の資源量806トンと0の間を3等分)

- 資源水準：2020年漁期の資源量140トンから「低位」
- 資源動向：直近5年間の資源量の推移から「横ばい」

資源の動向②



- 親魚量：2003～2004年漁期には100トンを上回ったが、2005年漁期以降は42～111トンの範囲で増減し、2020年漁期の親魚量は65トン
- 再生産成功率：海洋環境が強く影響すると推測される2009年漁期以降は極めて低い水準で推移

資源評価のまとめ

- 資源水準は低位、動向は横ばい
- 資源量指標値を考慮したコホート解析による資源量に基づいて資源状態を判断した

2022年漁期ABC

管理基準	Target/Limit	2022年漁期ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値からの増減%)
F20%SPR	Target	30	28	0.27 (-43%)
	Limit	36	30	0.34 (-28%)

- F20%SPR : 漁獲がなかった場合の20%の親魚量を取り残す
漁獲圧